

# 第 1 1 0 0 回教育委員会会議録

1 日 時 令和元年6月24日(月) 午後3時30分～午後5時03分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 東村教育長 西野委員 南部委員 原委員 山本委員  
内田教育振興監 清川学校教育幹  
片柳教育政策課長 小林学校振興課長 油谷高校教育課長  
鈴木課長(高校学力向上) 山本義務教育課長 塚本課長(小中学力向上)  
高橋生涯学習・文化財課長、河瀬保健体育課長

## 4 議 題

日程第1 第12号議案 令和元年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項(定時制の課程および通信制の課程)の制定について

日程第2 第13号議案 令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について

日程第3 第14号議案 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について

日程第4 第15号議案 福井県立図書館使用料徴収条例等の一部改正について

## 5 審議事項

(1) 開会宣告 午後3時30分

(2) 会議録署名人の指名 西野委員 原委員

(3) 議事要録

教育長 本日の日程第2 第13号議案から日程第4 第15号議案、協議報告事項の4と5については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議

—————当該議案を非公開と決する—————

教育長 日程第1、第12号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 例年、何人ぐらいの出願があるのか。

高校教育課長 平成30年度は、11人の出願で全員合格、29年度は8名出願で全員合格

である。

教育長 第12号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

◎協議・報告事項

(1) 平成31年度福井県立高等学校入学者選抜検査結果の概要について

教育長 選択問題について、数学、英語ともB問題より難易度の低いA問題の方が平均点は低い。同じぐらいの平均点になるように作問したのだが、結果的にA問題が難しくなった。特に、英語のA問題は、長文がたいへん長く、受験者にはかなり厳しかったようである。

昨年の英語の選択問題では、同じ英文を使用し問いだけを変えた。しかし、選択問題で同じ英文を使用するのでは意味がないので、今年度から違う英文で問題を作成した。内容的には簡単だったと思うが、文章量が多すぎたようである。一生懸命勉強してきた成果を發揮できるように、もう少し平均点が高くなるにしたい。

また、分析結果を各学校に示すことで授業でも活用できるようにしたい。

南部委員 この分析結果が最終版になるのか。

課長(高校学力向上) そうである。

南部委員 結果に関する解説や方針・施策に関する説明会を実施するのか。

課長(高校学力向上) 各中学校に分析結果を送付するとともに、教育総合研究所の小中学校教科研究課が各学校や市町教育委員会の要請に応じて訪問し、SASAや全国学調の分析と併せて授業改善のポイント等を指導していく。

また、各高校においても、指導主事訪問の際に、分析結果から分かる新入生の傾向や弱点を伝え、学習のスタートラインの確認を行っている。もちろん、今後の入試問題作成の際にも活用していく。

(2) 教員採用選考試験の出願状況について

原委員 志願者総数について、昨年より104名減ということだが、毎年100名ぐらいずつ減少しているのか。

学校振興課長 昨年度は82名減、一昨年度は115名減であった。ここ3年間で毎年平均100名ほど減少している。

教育長 今までは狭き門で不合格者が多く、次年度に再受験する人も多かった。しかし、以前より受かりやすくなったことで、近年は再受験する人数が減っている。

また、景気が良いことから民間企業に流れる傾向も強くなっている。

原委員 新卒者の志願者数の推移はどうなっているのか。

学校振興課長 今年度の大学卒業と大学院修了者で278名、昨年度が287名であり、それほどの変化は見られない。

南部委員 今後は、教職を目指す人たちの育成についても考える必要がある。

教育長 高知県のような採用試験を他県よりも早い時期に実施するという案もあるが、合格後に他県に流れていく人数が読めないのが難しい面もある。また、県では大学に進学した学生に教職免許の取得を推奨する取り組みも行っている。

西野委員 福井大学の教育学部でも教職を目指そうとしない学生はいるのか。

教育政策課長 入学時のアンケート調査では、6、7割程度の学生が教員になりたいと答えており、教員採用試験も受けている。県内で国立の文系の学部は福井大学にしかなく、教員を目指さない文系志望の学生も数多く福井大学に入学してくる。

西野委員 残りの3割の学生が採用試験を受験することはあるのか。

教育政策課長 多分、あまりないであろう。

西野委員 それらの生徒に対して、教職の魅力を伝え、教員採用試験を受験するような指導をしてほしい。

教育長 教育実習がきっかけで教職を目指す学生は多い。県内ではないが、就職内定者に対して教育実習を受けさせない企業もあるらしい。教育実習が始まるころに就社を求め、教職に心変わりさせないようにする企業も全国にはある。

原委員 募集人数は、あと何年かは200名程度を維持するのか。

教育長 50歳代の先生が多く退職者も多い状態が続くので、しばらくは200名程度でいきたい。

また、現在教育実習期間中で、例年だと藤島、高志にも卒業生が10人ぐらい実習に来るのだが、今年は藤島で1人、高志で3人しかいない。

西野委員 藤島、高志の生徒でも、教職という職業のポジションが下がってきていることが分かる。

原委員 中高保体の倍率が2.5倍となっているが、この数字は今後どれぐらい続く見込みなのか。

学校振興課長 しばらくはこの状況は続くと思われる。

教育長 保体の先生は、通信等で小学校の免許はとれないのか。昨年の採用試験の面

接でも、保体の受験者はしっかりした意見を持つ人が多く、現場で実績も積んでいるので素晴らしい先生が多いと感じた。

学校教育幹 体育の免許を取得しているので、小学校の免許取得に必要な基礎になる単位も持っているはず。ゼロから単位を取らないといけないというわけではない。

西野委員 モチベーションの高い先生が増えれば、子どもたちにとっても良いことだと思うので、ぜひ何か手だてを考えてもらいたい。

教育長 採用試験の二次希望で違う校種も書けるので、小学校の免許を取れるような手だても考えていきたい。

### (3) ふくい教員志望者セミナーの開催について

西野委員 これまでの保護者の参加数はどれぐらいか。

教育政策課長 1回目も2回目も20人から30人ぐらいの参加があった。

西野委員 保護者は子どもといっしょに参加するのか。

教育政策課長 保護者だけで参加している人も多い。

山本委員 どうやって募集しているのか。

教育政策課長 HPに掲載し応募してもらう。県外に進学した大学3年生までの学生全員にダイレクトメールを流している。福井大学の教育学部、仁愛大学の子ども教育学科には、1人1枚案内が渡るようにしている。それ以外の大学や学部については、学生課と相談して案内を送付している。

原委員 だいたい定員は埋まるのか。

教育政策課長 昨年度の実績では、嶺北会場で約120人、嶺南会場で60人ぐらいであった。多少余裕がある感じであり、今後も人数は増やしていきたい。

教育長 日程第2、第13号議案を議題

義務教育課長 資料に基づき説明

教育長 第13号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

教育長 日程第3、第14号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 第14号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第4、第15号議案を議題

教育政策課長 資料に基づき説明

教育長 第15号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

◎協議・報告事項

(4) 6月補正予算案について

(5) 会計年度任用職員について

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後5時3分